



県建築士事務所協会(舟幡健会長)による第35回茨城建築文化賞の表彰式が20日、同協会の総会にて執り行われる。この賞は地域の周辺環境に調和し、かつ景観上および機能的に優れている県内の建築物などを表彰するもの。文化の香り高い魅力あるまちづくりに対する意識高揚を図る目的で毎年開催している。今回は2019年4月1日〜21年3月31日までに竣工した建築物から40点の応募があった。これらを学識経験者や県土木部幹部職員、関係団体などで構成する茨城県建築文化賞審査委員会が厳正に審査し、14作品が受賞の栄に浴する。

受賞作品および受賞者は次のとおり。

【知事賞】

◆いばらき幼稚園Ⅱ一級建築士事務所(株)本瀬齋田建築設計事務所

【議会議長賞】

◆結城市庁舎Ⅱ(株)久米設計

【土木部長賞】

◆歴史と未来の交流館Ⅱ(株)梓設計

【茨城新聞社賞】

◆茨城・常陸大宮の家Ⅱ(株)中山大輔建築設計事務所

◆県建築士事務所協会賞

◆ひたちなか市立美乃浜学園Ⅱ(株)相和技術研究所

【住宅部門優秀賞】

◆佐藤邸新築工事Ⅱ(株)直井建築設計事務所

◆水戸笠原の家Ⅱ(株)サンハウス一級建築士事務所

【入選】

◆ハコフネⅡ一級建築士事務所 group - s c o p

◆JINS水戸元吉田店

◆平居直設計スタジオ

◆常磐線羽鳥駅橋上化及び東西自由通路新設Ⅱ東日本旅客鉄道(株)水戸一級建築士事務所/ (株)JR東日本建築設計

◆日立建機(株)土浦工場事務管理棟Ⅱ(株)日立建設設計

◆至誠館Ⅱ(株)三上建築事務所

◆平磯保育園Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆リフォーム賞

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所

◆蔵図書館Ⅱ(有)吉田建築設計事務所



【議会議長賞】 結城市庁舎

(株)久米設計

結城市には、見世蔵等の歴史的な街並みや、重要無形文化財である結城紬があり、まちの重要な文化として市民から大切に育まれている。新たな地に立つ新庁舎では、市の文化である結城紬をモチーフとし、積み重ねてきた歴史の継承とのまちの文化の表象を行った。特徴的な大きく弧を描く1階の屋根は、市民を迎え入れる「まちの顔となる庁舎」となると共に、天井高さの変化により市民の様々な居場所となる。屋根架構ブレース機能を兼ねた木合板天井や、吹

き抜けに面した木ルーバーにより、カーボンニュートラル社会の実現に向けた「木質化庁舎」を目指した。さらに、基礎免震や執務室の無天井化、議場の膜天井化を行い、安全性に配慮した「災害時にも継続可能な庁舎」とすると共に、感染症対策にもなる吹抜けを介した重力換気や、井水利用した躯体蓄熱型の天井輻射冷暖房による高効率な空調形式など自然エネルギーを利用した「環境配慮型庁舎」を実現した。



【土木部長賞】

歴史と未来の交流館

(株)梓設計

設計主旨ー歴史と未来の交流館は博物館と青少年施設の複合施設です。

むら全体を博物館と捉えた「まるごと博物館事業」と連動した活動で繋がる「生きた展示」を実現し、開かれた展示室は学びと発表の場でもあると共に、文教エリアの教育施設や図書館との連携した東海村の生涯学習拠点です。村の中心に位置する当施設の屋外広場や縁側は、周辺の図書館や文化ホール、学校などの帰りに気軽に立ち寄ることができる村民の憩いの場でもあります。

以下の3つのコンセプトを軸に、展示から文化活動へと

促す空間構成とし、世代を超えた交流の場を実現しています。

1. 展示室と多目的室、屋内と屋外を南北方向の活動で連携する「敷地全体を活動でつなぐ構成」
2. むら全体を博物館と捉え、収蔵・展示から村の魅力をみんなで発見し、展示する開かれた「生きた展示空間」
3. 博物館を保存するRC造の蔵と縁側空間を軽やかな活動の場を鉄骨造の大屋根で覆い、「活動と展示保存を実現する混構造」





(撮影:藤本一貴)

【茨城新聞社賞】 茨城・常陸大宮の家

(株)中山大輔建築設計事務所

設計主旨ーのどかな田園風景の広がる自然豊かなこの地に、農家住宅の敷地内に子世帯が孫とともに戻ることから計画が始まった。この地域も残念ながら少しずつ過疎化が進み人が減っていき、また美しい田舎の風景も少しずつ無くなってきている。そこで、まわりの自然環境や景色に溶け込むように建ち、この場所に建つ意味と価値を感じられ、それが長く次の世代まで継いで街並みを形成して欲しいとの願いを込めながら設計をした。

外観は、おおらかな屋根の下に、南側に大開口を設けて太陽の恵を十分に受け、二階建てだが低く佇むように立っている。室内は、杉の化粧垂木が連続して並び、松の床、栗の造作材など、地場でとれる無垢材を多用している。壁は漆喰壁を使い木とのバランスをとっている。メインの開口部には隠し框にした木製建具を使用し、木組みの美しさを際立たせている。



(撮影:株式会社エスエス 大野 賢一)

【茨城県建築士事務所協会賞】 ひたちなか市立 美乃浜学園

(株)相和技術研究所

設計主旨ー美乃浜学園は、ひたちなか市の太平洋側に位置する、平磯・磯崎・阿字ヶ浦地区にある、3つの小学校と2つの中学校を統合した、市内初となる施設一体型の義務教育学校です。建設地は、統合する5つの小・中学校のほぼ中心で、ひたちなか海浜鉄道湊線に近接する場所が選定されました。配置計画は、敷地の南側に共用グラウンドを取り、その北側に校舎棟、西側に屋内運動場棟とプール棟を配置する構成としました。電車通学の児童・生徒が多いため、駅からのアプローチをメインの動線と

考え、敷地北西角に正門を設けました。正門の先に広がるエントランス広場は、地域交流の場としての活用と共に、児童・生徒を昇降口へと誘導します。校舎棟の中央にある交流広場は、上履きで出られる人工芝張りの屋外空間で、休み時間の遊び場としての機能や、学童保育時には指導員からも目の届く、安全な遊び場として活用できます。内装は木質化を可能な限り推進し、暖かみのある居心地の良い空間づくりを行いました。



【入選】 常磐線羽鳥駅橋上化及び東西自由通路新設

東日本旅客鉄道(株)水戸一級建築士事務所 / (株)JR東日本建築設計

設計主旨ー小美玉市は「まちづくりの総合計画」の中で、市内唯一の鉄道駅である羽鳥駅を「まちなか交流拠点」として、生活基盤の整備や良好な景観形成などによる安全・安心・快適な住環境整備を掲げていました。総合計画の理念を受け、自由通路新設、駅のバリアフリー化整備を進める事で市民生活のより一層の充実と、街西側に広がる歴史文化が多く残る地域と、東側に広がる新しい住宅地との調和を図りながら、地域に開かれた人と人との交流が生まれる空間づくりを目指しました。鳥が大きく羽ばたく外観を羽鳥駅のアイデンティティーとし、大きく開放的なデザインが他にはない個性となっています。特徴ある大きな庇を活かし、間接光の柔らかい明りで包まれた空間が優しく燈された行灯のようになり、人々を迎え入れる空間を演出しています。また、分かりやすい施設配置、自由通路の視認性を高める形状とすることで、利用する皆さんにとって安心・安全に利用できる空間を実現しています。



【入選】 日立建機株式会社土浦工場事務管理棟

(株)日立建設設計

設計主旨ー延床面積5,000㎡を超える2階建ての大規模木造オフィスです。中央コア部分は耐火建築物(90分耐火)南北棟は準耐火建築物(45分準耐火)であり、木造在来軸組工法を採用。柱・梁は燃えしろ設計として現し、執務エリアや吹抜部には積極的に自然採光や自然換気が可能な環境配慮型としています。敷地は、工場の一角に位置しています。前面道路に面した企業の顔となる場所である為、新しい顔づくりにふさわしい施設計画としています。外装材にはアルミパネル材等を採用、軒先と天井材にはシナ合板材を用いて高さを揃え、内外に繋がりある意匠デザインとし、工場群と周囲の景観に溶け込む施設計画としました。従業員によるワークショップの意見により抽出した「快適性、多様性、コミュニケーション」のキーワードにより、施設計画を実現しています。木造らしい温かみのあるつくりとそれに合う塗装色の壁を採用することで、心地よい空間づくりを目指しました。



【入選】 平磯保育園

(有)吉田建築計画事務所

設計主旨ー計画地は東側に白亜紀層が現れる平磯海岸が眼下に見え、一面に広がる畑の中に漆線が走る姿が時折見えます。また開園に先立ち、寄り駅となる「美乃浜学園駅」が開業しました。創立80年を期に建て替えとなり、新たな子育ての拠点づくりが求められました。この地で産出されるアンモナイトをモチーフに、過去(歴史)と未来をつなぐ「らせん」を園舎デザインの骨子としました。園舎は木造の準耐火建築物。造作材、建具材、幼児用の椅子・机を県産材(杉・檜)で作りました。恵まれた自然環境を積極的に取り込むために、南側に弧を描いた幅3.7mの緑側の空間を設け、その先に園庭を見守るようにテラスを配置しました。2階には海が見えるルーフトラスを設け、プール遊びやグラウンピングも楽しめる大屋根の半屋外空間を創出しました。コロナ禍の今、給食の場にも活用。三密を避けた給食は子どもたち及び先生方のストレスを軽減し、のびのびと食事を楽しています。



【リフォーム賞】 蔵図書館

(有)吉田建築計画事務所

設計主旨ーかすみがうら市高倉地区は、古い民家が多く残り昔ながらの景観を保っている歴史ある地域です。一方でこの地域は市の最北部に位置するため図書館等の文化施設から離れており、住民が集える交流の場や文化施設が不足していました。そこで地域の旧家に残る古蔵を、「かすみがうら市まちづくりファンド助成事業」の採択を受けて、地域住民やサイクリストに開かれた小さな図書館に改修しました。外壁は伝統的左官技術を有する職人によって漆喰塗となまこ壁を復元しました。その一方で内部は整然とした本棚と螺旋階段の挿入によって重厚な蔵の既存部との対比を強調し、蔵特有の構造を活かしつつ新しい機能である図書空間の魅力に昇華させました。1階ではミニマルな水回りと薪ストーブ・ベンチの設けによって、小さな空間の中で自由にお茶や読書を楽しめます。こうして古蔵は、地域の景観と建物の文化的価値を受け継ぎながら、新たな地域コミュニティの場として貢献すべく蘇りました。

TOTAL DESIGN SOLUTION FIRM KUME SEKKEI 久米設計 代表取締役社長 藤澤 進

建築に、温度を。 AZUSA SEKKEI 株式会社 梓設計 代表取締役社長 杉谷 文彦

NAKAYAMA ARCHITECTS 株式会社 中山大輔建築設計事務所 www.nkym-aaa.com

SOWA 「人間のために」夢を創り続ける 一級建築士事務所 株式会社 相和技術研究所

株式会社 JR東日本建築設計

株式会社 日立建設設計 取締役社長 山田 直明

建築設計・監理・一級建築士事務所 有限会社 吉田建築計画事務所 代表取締役 吉田 良一

ふれあいの住まいづくり街づくり 一般社団法人 茨城県建築士事務所協会